

《平成26年度》

# 振興公社決算報告

## 津別町振興公社

受託事業については、本岐・活汲小学校の特別清掃業務を除き、日常清掃業務8施設、特別清掃業務12施設、施設管理業務11施設、公園管理業務6施設、公衆浴場管理業務1施設は、ほぼ当初の計画どおり事業を行いました。

指定管理者事業については、グレステナスキーは、昨年度に引き続き、5月〜10月までの土・日曜日、祝祭日及び夏休み期間中の営業とし、営業日数85日で1287人（前年度1110人）と昨年度を上回る実績となりました。

10月まで毎日利用可能とし、日帰り利用者580人（前年度429人）、宿泊利用者1804人（前年度1778人）と前年度を上回る実績となりました。経営状況については、ホテル事業撤退から7年を経過し、1949万2千円まであった累積赤字を本年度においてすべて解消することができました。また、これらの業務を行うにあたり常勤職員、パート職員、臨時職員、季節職員の職員総数56人の人員体制で業務を行いました。

## 相生振興公社

主要事業である「相生物産館」の営業については、14年目を迎えました。平成15年8月に「道の駅」として登録され、来場者は順調に推移してきましたが、近年は来場者数、売り上げとも厳しい状況が続いています。

127万円増となり、最終的には、税引き前当期利益67万2千円を計上し、法人税等充当額17万6千円を差し引いて、当期純利益49万6千円という結果になりました。職員配置については、そば・豆腐製造販売部門では2人の職員と平均3人のパート職員を配置し、地域おこし協力隊の協力を得ながら業務を行いました。



津別町振興公社損益計算書 単位：千円  
(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)

収入の部	
清掃管理事業収入	133,514
グレステナスキー事業収入	1,660
事業外収入	211
特別利益	0
収入合計	135,385
支出の部	
清掃管理事業原価	104,799
グレステナスキー事業原価	1,425
一般管理費	24,091
特別損失	2,000
支出合計	132,315
税引前当期利益	3,070
法人税充当額	533
当期利益	2,537



相生振興公社損益計算書 単位：千円  
(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)

収入の部	
店舗販売事業収入	81,023
公共施設管理事業収入	3,705
事業外収入	164
収入合計	84,892
支出の部	
店舗販売事業原価	55,768
公共施設管理事業原価	3,653
一般管理費	24,799
支出合計	84,220
税引前当期利益	672
法人税等充当額	176
当期利益	496

# 津別町まちなか再生事業の取組状況



今年度より行っている筑波大学との共同研究による「まちなか再生事業」。今回、第1回協議会開催からキックオフ・シンポジウムまでの取組の状況をご報告いたします。

### 第1回まちなか再生協議会

3月27日開催の第1回のまちなか再生協議会では、推薦団体等より選出された津別町の次世代を担う委員の皆様と、役員担当者で行われ、町長からの委嘱状交付の後、担当者より津別町の中心市街地の状況、まちなか再生事業の内容についての説明、今後のスケジュールの確認を行いました。

### 第2回まちなか再生協議会

4月17日開催の第2回からは取り組みを広く知ってもらうため、一般公開形式にて行いました。事業のプロデューサーである筑波大学大澤教授、津別町と筑波大学の橋渡し役である中川教授、筑波大学とともに、この事業に参加していただく小樽商科大学大津准教授の支援をしていただきました。教授の皆様それぞれがこの事業の詳しい内容についてご説明をいただき、ふるさと財団の方から、ふるさと財団の取組内容についてご説明をいただきました。会議の最後には事業の今後の進め方に活用するため委員、講師の方へアンケートをしていただきました。



プロデューサーを務める大澤教授

### 第3回まちなか再生協議会

5月22日開催の第3回では、まちづくりのテーマごとに具体的な取組について、学んでいくこととなりました。山本幸子助教による「建築ストックを活用して人の流れを変える」と題した空き家活用に関する講演をいただき、その講演をもとに、委員同士によるディスカッションと発表を行いました。山本助教よりアドバイスをいただきました。



筑波大学・山本幸子助教

### キックオフ・シンポジウム開催

6月12日にはまちなか再生事業の取組を町内外の方に知っていただくために、まちづくりをテーマとしたキックオフ・シンポジウムを開催いたしました。司会進行は津別町との連携機関である筑波大学、小樽商科大学の学生に担っていただきました。講演では、今後のまちづくりの参考となる貴重な講演をいただきました。

シンポジウムの後半には、前日に行われた、筑波大学学生とまちなか再生協議会委員とのワークショップの発表が行われ、山上裕一朗さん、工藤伸也さん、難波茂さん、田島博光さんが、ワークショップグループを代表として人口減少、空き家対策等、それぞれのテーマごとに発表していただきました。

「ないものねだりからの脱却」「コミュニティビジネスを津別町で」「津別町の魅力を再発見する」「6次産業化で津別アンテナショップを」といった、筑波大学生との熱心な議論の中から生まれたまちづくりのアイデアは、委員の皆様が津別町を想う気持ちが詰まったものとなりました。

シンポジウムには125名の出席があり、このキックオフシンポジウムを皮切りに津別町の取組を広く知ってもらい、今後、筑波大学との連携の下、まちなか再生事業を更に進めてまいります。



シンポジウム会場の様子